

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400936
法人名	株式会社 菊地組
事業所名	グループホームやまぼうし
訪問調査日	平成 21 年 3 月 2 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	670400936		
法人名	株式会社 菊地組		
事業所名	グループホームやまぼうし		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市直江町1番5号 (電 話) 0238 - 22 - 6660		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13 - 2		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年4月4日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算	15 人

(2)建物概要

建物形態	併設 / ○単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 80 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.47 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	米沢市立病院 三友堂病院 しおいクリニック 平間歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの目の前には、公園、小学校、幼稚園、乳児園、コミュニティセンター、図書館があり、日々子供たちの明るい元気な声を耳にしながら小学生、園児たちの慰問を受け、利用者は穏やかな心で過されている。周りには桜の木、やまぼうしの木が植えられ、春は花見、春から秋にかけてやまぼうしを眺め、米沢伝統野菜のウコギの葉を摘みに来る地域の方々とのかわりも大事にしながら、住み慣れた地域で幸せに暮らし続けられるよう懸命に支援されているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念については、地域で暮らし支える為には何が大事か職員で話し合い見直しをしている。家族意見の反映は、定期的に家族会を開催し、苦情、意見を表わせる機会を設け、意見、要望もあり事業所に反映させている。職員の異動も課題検討され、職員の定着化を重視し、馴染みの職員が関わり、利用者との信頼関係を築きながら家族にも報告している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価についての説明と話し合いを行い全職員で評価に取り組んでいる。月に一度、運営の代表者と職員主任で行われる「やまぼうし運営会議」にも職員のきづき、意見、要望を取り入れている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	推進会議は2~3ヶ月毎に開催され、利用状況、評価への取り組み状況の説明などを行ない、今年度から主任職員、利用者2名、出席者の枠を広げ、様々な意見、要望を頂き、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	ユニット毎に意見箱は設置しているが入っている事はなく、定期的に家族会を行い、意見、要望を口頭で表せる機会を設けている。また、家族にも利用者と同じ物を食べて頂き、食事会をしながら運営についての意見をもらい、3ヶ月毎に苦情相談用紙を家族に送付し、要望等も有り、ホームに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	乳児園、幼稚園の来訪、小学生がメッセージを書いたハガキを利用者一人ひとりに頂いたり、山大サークルによる演奏会、カラオケ愛好会、中、高校生の職場体験、ボランティアの受入等、日々来訪者が多い。町内会にも加入し、利用者と一緒にゴミ当番の掃除を行ない、地域との交流を大事にしている。また、ホームの芋煮会は、家族、地域の方々の参加を得て花見、夏祭り、雪灯ろう祭など、独自の取組みも行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価結果を踏まえ、住み慣れた地域でその人らしさの支援とは何ができるかを管理者、職員全員で話し合い、理念の見直しを行っている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和をすると共に、月1回のユニット毎の会議、全体会議の中で理念に基いたサービスについての話し合いを行ない意識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	乳児園、幼稚園の来訪、小学生がメッセージを書いたハガキを利用者一人ひとりに頂いたり、山大サークルによる演奏会、カラオケ愛好会、中、高校生の職場体験、ボランティアの受入等、日々来訪者が多い。町内会にも加入し、利用者と一緒にゴミ当番の掃除を行ない、地域との交流を大事にしている。また、ホームの芋煮会は、家族、地域の方々の参加を得て花見、夏祭り、雪灯とうろう祭など、独自の取り組みも行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についての説明と話し合いを行い全職員で評価に取り組んでいる。月に一度、運営の代表者と職員主任で行われる「やまぼうし運営会議」にも職員のきづき、意見、要望を取り入れている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2～3ヶ月毎に開催され、利用状況、評価への取り組み状況の説明などを行ない、今年度から主任職員、利用者2名、出席者の枠を広げ、様々な意見、要望を頂き、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、変更届等の提出の際に、現在の介護保険制度、施設運営のあり方について現状等議論する機会を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ホームでの暮らしぶりは「やまぼうし通信」で、金銭関係は預り金明細書、職員の異動等、健康面では担当職員が作成したものを利用者一人ひとりの家族に手紙を送付し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット毎に意見箱は設置しているが入っている事はなく、定期的に家族会を行い、意見、要望を口頭で表せる機会を設けている。また、家族にも利用者と同じ物を食べて頂き、食事会をしながら運営についての意見をもらい、3ヶ月毎に苦情相談用紙を家族に送付し、要望等もあり、ホームに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の改善課題を経営者、管理者、主任クラスの職員で話し合い課題検討をしており、職員の定着化を重視し、馴染みの職員が関わり、利用者との信頼関係を築きながら家族にも報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修も14の研修があり、職員の希望も多く研修には積極的に参加しており、報告書も提出し全体会議の中で報告会も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会置賜支部会に加入しており、月に一度同業者との交流を持ち、交換研修や、嚥化困難な方の勉強、地域密着型としてのサービスのあり方等、意見交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○ 馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	女性の利用者には特技の裁縫、家族から提供された柿を剥き、干柿作り、笹巻き作り、またホームの畑から収穫した野菜で漬物やピーナッツを乾燥させてピーナッツバター作り等、利用者から生活の知恵、技術を教えてもらう場面作りをしている。春はホームのテラスで花見、夏はバーベキュー、流しうめん、秋は芋煮会、一緒に過ごし支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から聞き取りを行い、家族の情報も取り入れながらホームの垣根のウコギ摘み、図書館に出かけたり、小野川温泉でゆっくり一日過ごして来る等、把握の困難な方には表情から汲み取り筆談で関わり、ミーティングで共有しながら一人ひとりの意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の要望を取り入れ、現状にこだわらず、生活歴、身体面、医療面を考慮しながらチームで話し合い、利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しが3ヶ月毎にあり、変化に応じて利用者、家族と話し合いをもち、新たな介護計画を臨機応変に作成し、職員全員で共有している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用前からのかかりつけ医に継続して受診できる様に 家族と協力しながら支援している。希望者には協力医 療機関の週1回の定期的な往診や、看護師による健康 チェックもあり、適切な医療が受けられる様に支援して おり、受診結果は家族に報告して職員も共有してい る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	事業所としてできることの「看取り方針」を作成し、家族 に説明して同意を得ている。変化に応じて主治医や家 族と話し合いを重ね「医療連携体制」をとっており、緊 急時に備えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	ホーム発行の「やまぼうし通信」に利用者の写真や名 前を掲載する際は家族から同意書をもらい、プライバ シーの確保に配慮している。職員は、「個人情報保護 法」を理解し、利用者の個人記録や保管場所にも気遣 われ、確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	機械的な時間の流れにならない様に、利用者一人ひと りの気分や体調を配慮しながら、行きたい所、やりたい 事を尊重し、できるだけ希望に添える様に、個別性の ある支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の食事は外部サービスを利用しているが週1回日曜日の夜は、希望する献立を準備から後片付けまで一連の作業を職員と利用者が一緒に行っている。自家野菜を調理したり、夏にはテラスで流しソーメン、バーベキュー、芋煮会等を楽しんでいる。	○	自家菜園で穫れた沢山の野菜を最大限利用し、毎食職員と利用者が一緒に作る喜びを味わい、テーブルを囲み同じ食事を食べることができるよう取り組みに期待されます。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎、一日おきに入浴日を決めているが、その都度利用者の体調や希望に合わせて入浴できる様に対応している。季節の入浴剤、足湯、小野川温泉利用等、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の特技や好きな事を日頃から把握し、一人ひとりにあった力を発揮できる様な場面作りや、気分転換、レクリエーションに力を入れている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	3ヶ月毎に小野川温泉に日帰りで出かけ、一日ゆっくり食事や入浴を楽しんでいる。隣接する法人グループ事業所との訪問交流、合同での催物開催等や、また近くに小学校、公園、公共施設があり、散歩コースとなっており、恵まれた環境の中で地域と交流しながら外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員は利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、日中は玄関を開放して見守りながら安全に過ごせる様に支援している。帰宅願望の強い利用者には止めるのではなく、一緒に付き添い、職員は鍵をかけないケアを理解しており、運営推進会議を通して地域の方や、交番にも協力をお願いしている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中を想定した避難訓練を実施しており、4月には夜間を想定した訓練を予定している。消防署主催の研修会への参加や、災害時緊急連絡網を使用した職員召集の訓練などを実施しており、地域の協力体制もできている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を夜間も含め、チェック表に記録している。個別の食事形態や量の調節、食のすすまない方には補助食品の配慮等、カロリー計算されたバランスの良い食事の提供に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはコタツを置いた畳のスペース、天気の良い日はテラス、ソファを置いた廊下等、利用者がそれぞれ好きな場所で過ごせる様に工夫している。季節の物や利用者の手づくり作品を掲示したり、昔の慣わしや行事を大切にして、清潔感や安全面に配慮しながら家庭的で居心地良く過ごせる様な共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋入口には色分けしたのれんが掛けてあり、使い慣れた物を持ち込み、畳部屋に模様替えしたり、掃除等出来る事は自分でやり、自宅の様にその人らしく落ち着いて安心して過ごせる様に支援している。		